




公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター

OUTLINE





公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、京都府の歴史と文化を解明し、埋蔵文化財等の歴史的遺産を後世に伝えていくとともに、埋蔵文化財の調査研究体制の整備充実を図ることを目的として、昭和 56 年、京都府によって設立されました。

京都府教育委員会と当調査研究センターは、それぞれの機能を分担しあい、埋蔵文化財の保護を積極的に推進しています。



過去－現在－未来につなぐ。



丹後・丹波・山城の3国からなる京都府は、太古から多くの人々が生活し、個性豊かな文化が生まれた土地です。現在、私たちが立っている地面の下にも、昔の人たちの生活の痕跡が眠っているかもしれません。

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは、国や京都府などが実施する公共事業が、遺跡のある場所で実施される場合、それに先立ち、京都府教育委員会の指導に基づいて埋蔵文化財の発掘調査を行っています。

建物の柱穴や石組みなどの遺構や、埴輪、土器、瓦の数々。それら発掘調査で得た成果を詳細に記録、考察し、「調査報告書」にまとめます。調査後その場所が埋めもどされても、昔の人たちが考え、生きてきたことの証は、出土した遺物とともに未来へと伝えられます。

さらに、当調査研究センターは、これらの遺産を大切に保存することはもとより、府民の皆様にも埋蔵文化財の大切さを知っていただくため、展示やセミナーなど、公開・活用の事業も行っています。

埋蔵文化財は、文献などの記録では知ることのできない地域の歴史と文化を生き生きと物語る国民共有の財産です。当調査研究センターは、この貴重な文化財を守り伝えるため、毎日責任感と緊張感をもって作業を行っています。

事業の 3 つの柱

発掘調査

遺跡が所在する場所で開発事業が行われ、埋蔵文化財が壊れる恐れのある場合に、現地で発掘作業を実施し、写真や図面を使って、検出した遺構の記録保存を行います。

整理報告

現地作業終了後、遺構の写真や図面の整理、出土遺物の整理等作業を経て、調査成果をとりまとめた報告書を刊行します。

普及啓発

発掘調査で得られた成果を、府民の皆様をはじめ多くの人たちに知っていただき、郷土の歴史や文化財に親しみを持っていただく催しを行っています。

発掘調査事業の概要

1. 事前協議



2. 事業の着手（契約の締結）



3. 調査計画の策定



4. 発掘作業



5. 整理等作業



6. 報告書の刊行・配布



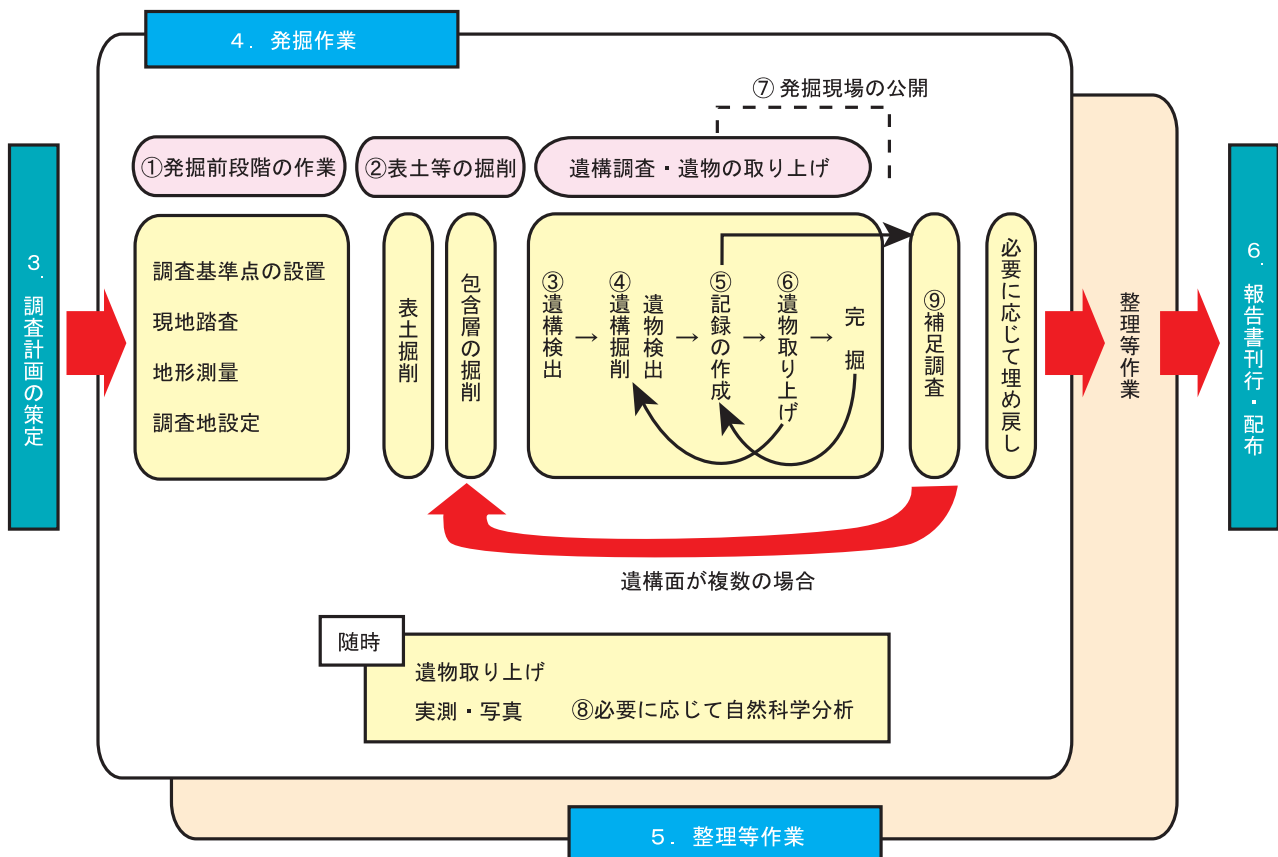
7. 事業の精算・完了報告
（契約の完了）

公共事業等に伴って事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要となった場合は、京都府教育委員会の指導に基づき、開発事業者と当調査研究センターが調査に係る現地での打ち合わせ等（1. 事業協議）を行います。これを受けて、両者で調査に係る委託契約を締結し、調査に着手することとなります（2. 事業の着手）。

発掘調査は、3. 調査計画の策定、4. 現地における発掘作業、5. 調査記録と出土品の整理作業から6. 報告書の刊行・配布に至る一連の作業によって構成されます。

当該年度末（3月31日）の事業完了に伴い、委託料の精算を行い、委託先に実績報告を提出します。

調査計画の策定から報告書刊行まで



発掘調査の基本的行程模式図

（『京都府における行政目的で行う発掘調査の標準』より抜粋）

調査計画の策定

調査対象地を確認したうえで、発掘作業と整理等作業の進行計画、排土の処分方法や排水計画等を策定し、文化財保護法に基づく届出等の事務を進めます。また、調査履歴のある遺跡などについては調査歴を調べます。

発掘作業

①発掘前段階の作業（測量ほか）

十分な現地踏査を実施した上で、掘削前の写真撮影、測量基準点の設置、地形測量等を行います。

また、対象となる遺跡の種類や性格に応じて、適切に調査区の設定を行います。安全対策を十分に考慮しつつ、作業を進めていきます。

②表土等及び遺物包含層^{くっさく}の掘削（重機掘削・人力掘削）

地表面上に隆起する古墳や建物基礎を除き、平地に所在する遺跡は重機を用いて表土等を掘削します。

その後、遺物を含む包含層を掘削する場合は、その状況に対応した大小の用具を使い人力による掘削を行います。

③遺構の検出（人力掘削）

作業員等が小型の道具を用いて、遺構面を薄く削ることにより、遺構の輪郭を正確に把握します。

④遺構の掘削と遺物の検出（人力掘削）

遺物の出土に留意しながら埋土の基本層位ごとに掘削を行います。玉類等の微細な遺物の出土が想定される場合は、遺構内の埋土ごとに取り上げて水洗選別等の方法を用いて遺物を採取します。

⑤遺構の記録（写真撮影・図面作成）

調査員が遺跡の状況や性格、遺構の特徴を十分に認識したうえで写真撮影を行います。さらに遺構の特徴を的確に把握し、図面を作成します。

⑥遺物の記録と取り上げ（写真撮影・図面作成・人力掘削）

遺物の出土状況を記録するために写真撮影や図面作成を行います。

遺物の取り上げに際しては、材質などに応じた方法で遺物を破損しないように慎重に行います。

⑦発掘現場の公開（現地説明会ほか）

発掘調査の成果は地域の歴史を知る上で重要なものであるため、その内容を適切に伝えることができる時期に、地域の住民のみなさんに公開します。

⑧自然科学的分析

遺跡の性格を明らかにする上で有効と判断される場合は、土壌等のサンプリングを実施し、専門的な分析をおこないます。

⑨補足調査

発掘現場の公開終了後、埋め戻しや現地の引き渡しまでの間に、必要に応じて遺構の断ち割り等の調査を実施します。



① 測量



③ 遺構の検出



④ 遺構の掘削と遺物の検出



⑤ 遺構の記録

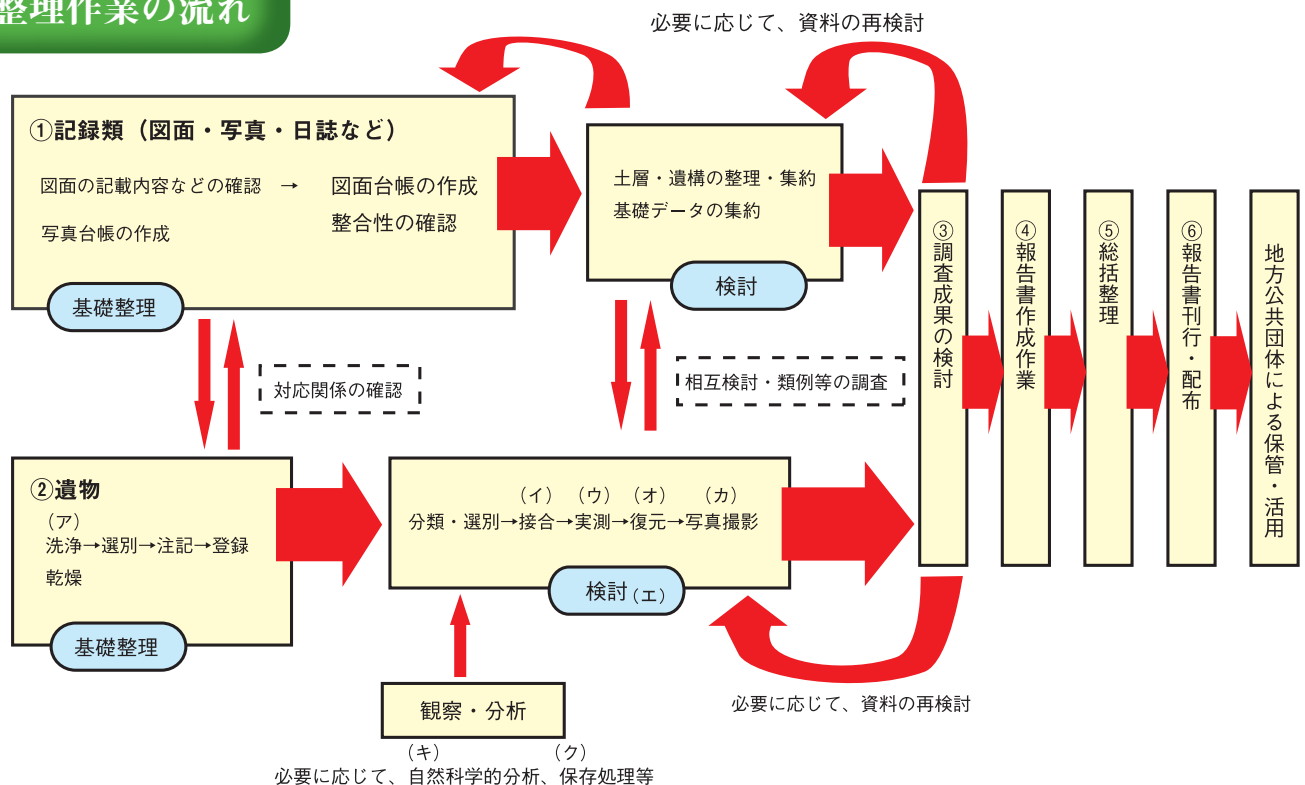


⑦ 発掘現場の公開



⑨ 補足調査

整理作業の流れ



整理等作業の基本的工程模式図
『京都府における行政目的で行う発掘調査の標準』より抜粋一部加筆

①記録類と遺構の整理

発掘作業で作成された図面、写真、日誌等の記録類の内容を確認、整理、集約します。その上で、各遺構の位置づけ等を検討しつつ、報告書の概略を方向づけます。

②遺物の整理

（ア）洗浄・乾燥・注記

遺物を正確に観察できるように付着している土壌等を洗浄し、乾燥させます。その後、遺物の出土地点等の必要な情報を直接書き込み、遺物全体を観察して作業上必要な選別を行います。

（イ）接合

遺物の破片を接合して本来の器形に近づける作業で、破損しやすいものについては、石膏等で補強します。

（ウ）実測・拓本

遺跡の年代や性格を理解する上で有用な情報をもつ遺物を選択し、観察しながら計測し図化します（実測）。図面では表現できない遺物の文様については、拓本（墨の濃淡で表現する図）をとります。



（ア）洗浄



（イ）接合



（ウ）実測

(エ) 遺物の検討

洗浄から実測・拓本の工程をうけて、遺物全体の検討を行い、報告書の内容を詰めていきます。

(オ) 復元

遺物本来の姿を理解しやすくするため、接合した遺物の欠落部分を石膏等で復元します。

(カ) 遺物の写真撮影

実測図では表現できない遺物の質感や量感、製作手法、遺存状況等を示すために、写真撮影します。

(キ) 自然科学的分析

考古学的手法や分析では明らかにしにくい年代測定や環境復元、材質・原産地の鑑定・同定等の分析を行います。

(ク) 保存処理等

出土したままの状態では整理等作業や保管に支障をきたすような脆弱な遺物について、劣化を抑えるための理科学的な処理を施します。

③調査成果の検討

①（記録類と遺構の整理）と②（遺物の整理）の工程を終えた後、報告書に記述する個別の遺構・遺物についての基本的内容をまとめる作業です。

④報告書作成作業

印刷物として報告書のかたちにまとめる作業で、文章作成・トレース・版下作成→割付・編集→印刷へと工程が進みます。

⑤総括整理（保管・活用に備える作業）

発掘作業で作成された記録類及び整理等作業で作成された資料類や出土遺物を報告書をインデックスとして利用し、保管できるよう整理区分します。

⑥報告書刊行・配布

発掘調査の成果をまとめた報告書は、広く活用できるように配布するとともに、当調査研究センターのホームページに掲載します。



(ウ) 拓本



(オ) 復元



(カ) 遺物の写真撮影



(キ) トレース



(ク) デジタルトレース



(ケ) 報告書刊行

①公開講座（埋蔵文化財セミナー等）

埋蔵文化財セミナーは、京都府内で実施した発掘調査の成果をわかりやすく説明し、府民の皆様へ埋蔵文化財に対する理解を一層深めていただき、文化財保護に寄与することを目的に開催しています。



① 埋蔵文化財セミナー

②発掘調査成果速報展

昭和 57 年度から毎年夏休みの期間中に、京都府内の最新の発掘調査成果について、写真パネルや出土した遺物を展示してわかりやすく紹介する速報展を開催しています。



② 発掘調査成果速報展

③出前授業・体験学習

府内の小学校、中学校、高校の生徒を対象に、地域の歴史を学習する場として発掘調査で出土した土器や石器を用いて出前授業や勾玉づくり、発掘調査などの体験学習会を行っています。



③ 出前授業

④関西考古学の日

全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックが主体となり、7月から11月の間、考古学の普及を目的とした催しを行っており、京都の歴史を紹介する講座を開講しています。



③ 体験学習

⑤ホームページ上での調査成果の公開

これまでの調査成果を公開するとともに、現地説明会や公開講座などの各種催し物の案内、当調査研究センターの刊行物の公開などをしています。



④ 考古学講座

⑥『京都府埋蔵文化財情報』等の発行

当調査研究センターの機関誌として、遺跡の発掘調査速報、略報、センター内外の研究者の論考・研究ノート・資料紹介、センターのできごとなどを掲載している『京都府埋蔵文化財情報』を定期的に発行しています。

また、当センターでは、5年ごとに『京都府埋蔵文化財論集』を刊行しています。



⑥ センター刊行物



京都府内最大の円墳！丹波の巨大古墳

鉄剣や短甲、鏡など豊富な副葬品を持ち、丹波地域を治めた有力者の墓と考えられています。／古墳時代／綾部市史跡私市円山古墳



国内産の三彩陶器が数多く出土

三彩陶器は緑、白、黄の釉薬をかけた焼き物です。木津川市史跡神雄寺跡（馬場南遺跡）で出土した三彩陶器はすべて日本製です。／奈良時代



豪華な頭飾りを身につけた女性のお墓

丹後を治めた一族のお墓です。棺内は赤く塗られ、玉類を使った頭飾りが被葬者に装着された状態で出土しました。／弥生時代／京丹後市史跡赤坂今井墳墓



幻の寺院発見！

川跡に捨てられた大量の土器の中に「神雄寺」と書かれた土器があります。記録に残っていないお寺があったことがわかりました。／奈良時代／木津川市史跡神雄寺跡（馬場南遺跡）



邪悪な侵入者をにらむ

盾形をした埴輪にすると顔をした顔が表現されています。／古墳時代／亀岡市時塚1号墳



3,000 年前の縄文住居

近畿では珍しい、石囲炉をもつ住居です。東日本の影響を受けたと考えられます。／縄文時代／長岡京市伊賀寺遺跡



丹波の山城

京丹波町の交通の要衝に位置する山城です。曲輪や土塁、竪堀など戦国時代の山城が良好な状態で確認されました。/ 京丹波町三ノ宮東城跡



平城京の瓦を作った工房

奈良時代に瓦を焼いたこの窯では、工房への道には石を敷き詰め、斜面を歩きやすいように工夫していました。/ 木津川市史跡奈良山瓦窯跡



鮮やかな器たち

中国産の華南三彩盤や織部焼などの様々な優品が出土しました。富裕な町人層が住んでいたと考えられています。/ 江戸時代初期 / 京都市平安京跡

調査した遺跡と出土遺物



八角形の住居跡

弥生時代の八角形の住居跡の中央には炉跡があります。炭化した木材やおやまぎきょうまつだや焼土から燃やされたと考えられます。/ 大山崎町松田遺跡



多種多様な土器

他地域から運ばれた土器やその影響を受けた土器も出土しました。広い地域と交流があった集落でした。/ 弥生時代 / 南丹市池上遺跡



秀吉の石垣現る！

豊臣秀吉が京都の政庁、居所として築いた聚楽第本丸南堀の石垣が見つかりました。

／安土桃山時代／京都市聚楽第跡



「西寺」と押印された瓦

同じ印板で押印した瓦が京都市西寺跡から出土しています。本来は平安京内にあった西寺の瓦が、何らかの理由で窯の修理に使われました。／平安時代／八幡市美濃山瓦窯跡群



世界遺産を掘る！

世界文化遺産にも登録されている清水寺の本堂（国宝）の舞台下の発掘調査を初めて行いました。礎石を据えた様子など確認する貴重な機会となりました。／京都市国宝清水寺本堂

調査した遺跡と出土遺物



万葉の歌木簡

『万葉集』に収録されている歌の一部が書かれています。／奈良時代／

11 木津川市史跡神雄寺跡（馬場南遺跡）

阿
支
波
支
乃
之
多
波
毛
美
智

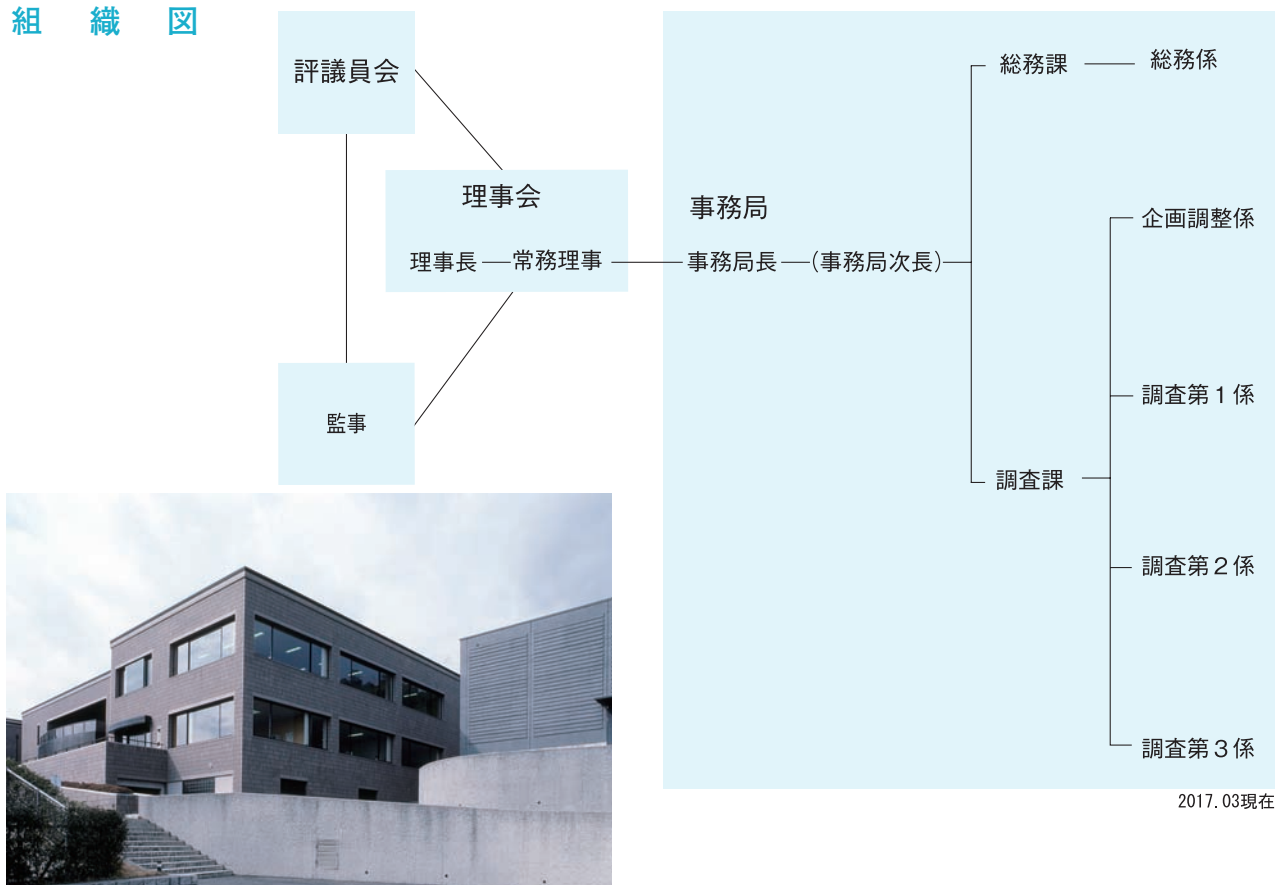


秀吉の京都改造

現在の京都府立鴨沂高等学校の敷地内の発掘調査を実施しました。秀吉によって作られた寺町の寺院に伴う建物や墓地などが見つかりました。／安土桃山時代／京都市寺町旧域・法成寺跡

名 称	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
沿革	昭和 56 年（1981） 3 月 25 日 設立認可 昭和 56 年（1981） 4 月 1 日 業務開始（京都市上京区広小路通寺町東入ル中御霊町 424） 昭和 59 年（1984） 4 月 21 日 現庁舎に移転 平成 23 年（2011） 3 月 29 日 京都府知事により公益財団法人に認定 平成 23 年（2011） 4 月 1 日 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターに名称変更
所在地	〒 617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40 番の 3
施設	敷地面積 3,827㎡ 建物構造及び面積 本 館：鉄筋コンクリート造り 2 階建（一部地下 1 階）1,027㎡ 収蔵庫：鉄骨造り 1 階建（一部地下 1 階）458㎡
基本金	基本金 10,000,000 円（京都府出えん）
目的	京都府の区域内に存する埋蔵文化財の調査、保存、活用、研究及び普及啓発等に係る事業を行い、文化財の保護を図り、もって地域の文化的向上及び発展に寄与する。
事業	埋蔵文化財の調査、保存、活用等に関する事業 埋蔵文化財の研究、資料の収集、整理及びこれらの成果等の刊行に関する事業 埋蔵文化財に関する展示、公開、セミナー、講演会等の普及啓発に関する事業等

組織図





西暦													
B.C.30000													
B.C.11000													
B.C.5000													
B.C.3000													
B.C.1000													
B.C.400													
A.D.1													
100													
200													
300													
400													
500													
弥生時代													
縄文時代													
旧石器時代													
(中期)													
後期													
草創期													
早期													
前期													
中期													
後期													
晩期													
前期													
中期													
後期													
前期													
中期													
後期													
横穴式石室の普及													
巨大古墳がつくられる													
二・三九牟弥呼、中国王朝(魏)に朝貢													
五・七倭奴国王後漢に遣使、金印を受ける													
大規模なムラの誕生													
稲作が定着													
列島の温暖化が進む													
土器の出現・集落の定着が始まる													
列島が寒冷気候におおわれる													
できごと													
センター調査の主な遺跡・遺物													
巫女形埴輪(塩谷5号墳)													
金銅装双龍環頭大刀柄頭(高山12号墳)													
高山12号墳(京丹後市)													
奈良岡北一号墳出土品													
私市円山古墳出土品													
私市円山古墳(綾部市)													
水祭祀遺物(浅後谷南遺跡)													
家形埴輪(土辺古墳)													
赤坂今井墳墓出土品													
赤坂今井墳墓(京丹後市)													
松田遺跡(大山崎町)													
木津城山遺跡(木津川市)													
水晶玉製作関係遺物(奈良岡遺跡)													
市田齐当坊遺跡(久御山町)													
雲宮遺跡(長岡京市)													
温江遺跡(与謝野町)													
縄文土器(平遺跡)													
伊賀寺遺跡(長岡京市)													
時塚遺跡(亀岡市)													
浦入遺跡(舞鶴市)													
志高遺跡(舞鶴市)													
案察使遺跡(亀岡市)													





みずさいしいぶつ
水祭祀遺物 / 古墳時代
きょうたんごしあさごだにみなみ
(京丹後市浅後谷南遺跡・府指定文化財)



きづがわしごりょういけひがし
古代の瓦 / 奈良時代 (木津川市五領池東瓦窯跡)



古 代			中 世				近 世		近代
飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	戦国時代	安土桃山時代	江戸時代	

<p>七九四年桓武天皇、平安京遷都</p> <p>七八四年桓武天皇、長岡京遷都</p> <p>七四五年聖武天皇、平城京遷都</p> <p>七四〇年聖武天皇、恭仁京遷都</p> <p>七一〇年元明天皇、平城京遷都</p> <p>六四五年乙巳の変 (大化の改新)</p>			<p>一一八五年源頼朝諸国に守護・地頭を設置</p> <p>一一五六年保元の乱がおこる</p> <p>一〇八六年白河上皇院政をひく</p> <p>一〇一六年藤原道長摂政となる</p>				<p>一六〇三年徳川家康征夷大將軍となる</p> <p>一五八二年本能寺の変</p> <p>足利義昭を奉じて入京</p> <p>一五六八年織田信長、</p> <p>一四六七年応仁・文明の乱がおこる</p>		<p>一八六七年大政奉還</p>
---	--	--	---	--	--	--	--	--	------------------

<p>遠慮遺跡製鉄工房跡 (京丹後市)</p> <p>篠窯跡群 (亀岡市)</p> <p>神雄寺跡 (馬場南遺跡) (木津川市)</p> <p>上粕北遺跡 (木津川市)</p> <p>五領池東瓦窯跡 (市坂・梅谷・鹿背山・奈良山瓦窯跡群)</p> <p>女谷・荒坂横穴群 (八幡市)</p> <p>俵野廃寺 (京丹後市)</p>			<p>史跡及び名勝笠置山 (笠置町)</p> <p>棕ノ木遺跡 (精華町)</p> <p>佐山遺跡 (久御山町)</p> <p>大道寺経塚出土品 (大道寺跡)</p>				<p>宮津城跡 (宮津市)</p> <p>金箔瓦 (聚楽第跡)</p> <p>大俣城跡 (舞鶴市)</p> <p>三ノ宮東城跡 (京丹波町)</p>		<p>市指定文化財</p> <p>府指定文化財</p> <p>(考古資料)</p> <p>国重要文化財</p> <p>国史跡</p>
--	--	--	---	--	--	--	--	--	--



いえがたはにわ
家形埴輪 / 古墳時代
おおやまぎきちようつつべ
(大山崎町土辺古墳・府指定文化財)



じゅうらくだい
聚楽第跡出土の金箔瓦
/ 安土・桃山時代
きょうとし
(京都市聚楽第跡・国重要文化財)



公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内 40 番の 3 Tel : (075) 933-3877、Fax : (075) 922-1189

ホームページアドレス <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

交通：J R 京都線向日町駅から徒歩 20 分、阪急京都線東向日駅から徒歩 10 分